

即錯フェス

無神経人類の心理実験38類

入場無料



▶ 特設サイト



Artopia 30th Anniversary



メディア・アートピア 2026



9月21日 (月・祝) ~ 23日 (水・祝)

13:00~18:00 最終日は17:00まで

名古屋市青少年文化センター 7th プラザほか

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 [青少年文化センター [アートピア]]

主催

(公財) 名古屋市文化振興事業団 (青少年文化センター)
小鷹研究室 as (名古屋市立大学芸術工学研究科)

参加メンバー

高橋奈里・加賀美果歩・牧野内柚香・小林佳永・小鷹理
宇佐美日苗・肥後琴楓・宮本陽菜

問い合わせ

名古屋市青少年文化センター (052-265-2088)

▼ 企画・実施

小鷹研究室 as

小鷹研究室 as

即錯フェス？

2020年から過去3回にわたって栄で開催され大盛況だった『注文の多いからだの錯覚の研究室展』が、新たに「即錯フェス」として生まれ変わります！

そくさく

即錯とは、コンピュータを使わない簡単な仕掛けで、大人も子供もすぐに体験できる「からだの錯覚」のこと。小鷹研究室asはこれまでに、手や耳の皮膚をびよんと引き延ばす錯覚など、オリジナルの即錯を多数発表し、NHK番組『おはよう日本』や、雑誌『子供の科学』などで大きく取り上げられてきました。今回は、こうした即錯をこれまで以上にフューチャーし、鏡やゴム、紙、マグネット（新作！）、スライム、影など日常的な道具を使ったさまざまな錯覚を一気に体験できる展示を開催します。気に入った錯覚は、学校へ、職場へ、自宅に持ち帰って、まわりのみんなをびっくりさせてしまおう！

即錯に加え、VRゴーグル（HMD）を使って頭の中でボールを転がすXR体験、手や頭の中に手を入れられるXRAY錯覚、じわじわと不思議に浸されていくアート体験など、おなじみの小鷹研究室asコンテンツが目白押し。恒例のオリジナル即錯Tシャツも新作を多数用意してお待ちしています。

未来人類の無神経実験 38 類（の一部＊）

実際の身体のカタチや約束事に対してとことん無神経になること、そうすれば自ずと向こう側から錯覚は降ってくる！未来の人類は、今よりもずっと日常的に、心と身体の配線を入れ替えて、色々な身体のカタチを経験しているはず。即錯フェスでは、まだ誰も知らないオリジナルの無神経実験が38種類。ひと足先に、未来の無神経人類になってみよう！

仏陀の耳		コピライト	
あたま開き		肘のスライム	
じぶん溶接		クレーダー	
四足人間		指生地伸ばし	
八足人類		目玉はじき	
ハンドスライム		スライムどくがん	
じぶん観測		リスニングあたま	
指虫			

＊無神経実験の38のメニューは変更される場合があります。最新の実験リストは特設HPの中でご確認ください。

[アクセス]

名古屋市青少年文化センター

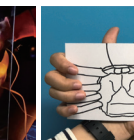
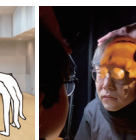
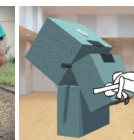
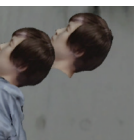


〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3-18-1
地下駐車場有り

【電車の場合】（名古屋駅より）名古屋地下鉄東山線・藤ヶ丘・星ヶ丘方面行で「栄駅」下車（所要約4分）、7・8番出口より徒歩（7分）。あるいは「栄駅」で名城線・左回りまたは名港線・名古屋港方面行に乗り換え、「矢場町駅」下車（所要約2分）、5・6番出口より徒歩（5分）。



RESHAPEDBODY



小鷹研究室 as

アタリスク

「からだの錯覚」をテーマの中核に据え、「いまここ」を舞台とした「とりかえしのつかない遊び」を探究する注文の多いからだの錯覚の研究室。asは注釈アタリスクの略。院生数人の小規模のラボ形態を維持しながら、斬新な錯覚装置を多数設計し、毎年国内外の様々な展示に出席するだけでなく、自らも錯覚展示を定期的に企画する。研究室を主宰する小鷹理理は、2019年に認知科学会より野島久雄賞を受賞。23年に講談社ブルーバックスより「からだの錯覚」を上梓。24年には「身体がますますわからなくなる」（大和書房）を出版。これらに前後して、雑誌『子供の科学』で巻頭特集、NHK『おはよう日本』での特集、ドキュメンタリー科学番組「フロントア」への出演など、様々なメディアで「からだの錯覚」が紹介される。



2017年以降の10年で、アジア最大のコンピュータ技術の祭典SGGRAPH Asiaで11の錯覚装置を出品し、22年と25年にXR部門の最高賞を受賞。国内でもXRクリエイティブアワードにおいて5作品がファイナリストに選出されるなど、XRシステムによる錯覚設計において確固たる実績を持つ。また、世界錯覚コンテストでは、19年より4大会連続で、のべ5作品がトップテン入りを果たす。

体験型展示として、2016年に名古屋市科学館、23年に旭川市科学館の「からだの錯覚まつり」、25年には福富財団「こども科学博」（京都・みやこめっせ）に参加。全国各地で、オリジナルの錯覚を来場者が実際に体験できる機会を提供している。アートの領域では、2021年にICC（東京・新宿）で「小鷹研究室の錯覚論争2016-20/頭部解宣言」を半年間にわたって開催。23年には「わたしの身体は心になる？」（展・東京・有楽町）や「科学と芸術の丘」（千葉・松戸）に出演するなど、首都圏でも継続的に活動を展開している。

2015年より、5年連続で研究室展示「からだは戦場だ」とをピッカフェ（岐阜・柳ヶ瀬）で開催し、新作の錯覚体験をいち早くデモとして実験的に公開するスタイルを確立。20年より「名古屋電気博」のフォーラムに引き継ぎ、asを舞台に「注文の多いからだの錯覚の研究室展」を2年毎に開催。錯覚体験に加え、多様な分野のゲストを呼ぶトークイベントを企画。谷村裕・金井孝彦・水野勝仁・伊藤雄馬・大山嶺・谷口晴彦などが登壇。カウント名でInstagramを開発。10秒に満たない複数の錯覚動画の視聴数が一千万を超えるなど、わずか数ヶ月でフォロワー数が2万を超える。錯覚現象を翻訳なき「出来事／事件」と位置付け、文化を超えた身体への感応を架けていく。